

71 下肢閉塞性動脈硬化症と頭部CT所見：特に
梗塞巣の成り立ちに関する臨床的検討

(老年病) 佐々木明德, 岩本俊彦, 勝沼英字,
(外科学第二) 清水 剛, 石丸 新, 古川欽一

下肢閉塞性動脈硬化症(以下ASO)と脳卒中との
関係を知る目的で, ASO症例の頭部CT所見と種々
の関連因子について臨床的に検討した。

対象と方法: 対象は何らかの虚血症状を呈し, 血
管撮影にてASOと診断された40例で, 心原性塞栓症
によるものは除外した。全例に頭部CTを施行し, 所
見は低吸収域(-)群(以下NLDA群), 出血群,
梗塞群に分類された。梗塞巣はさらに, 皮質枝梗塞,
境界域梗塞およびlacuneに分類し, 各群について高
血圧, 糖尿病などの関連因子を比較, 梗塞巣とASO
との関係を検討した。結果: NLDA群は13例, 出血
群1例, 梗塞群は26例(lacune 17例, 皮質梗塞3例,
これらの混在6例)となった。各群ともASO発症時
の年齢(全体で平均65.4±12.1歳)に差はなく, 性
別では男性(35例)が多かった。各因子について比
較すると, 梗塞群では中等度以上の高血圧, 糖尿病,
多量喫煙が各々38.5%, 34.6%, 81%(NLDA群で
は各々23.1%, 23.1%, 55.6%)と多かったもの,
有意差はみられなかった。また虚血性心疾患, 心房
細動にも有意差はなかった。梗塞巣に影響する各因
子の程度(多変量解析数量化Ⅱ類)では高血圧,
喫煙が強かった。次に合併頻度の高い喫煙, 高
血圧, 糖尿病, 心房細動の組み合わせをみると,
因子の数の平均はlacune 1.6個, 皮質梗塞およ
び混在2.1個(NLDA群は1個)となり, 有意
に多かった。ASOおよび梗塞発症の時間的関
係では, ASOによる症状出現後2年までに梗
塞巣を認めたものが14例あり, これはNLDA
群13例を加えた例数の過半数を占めていた。こ
のことは梗塞がASO発症と並行して, あるいは
それより以前に生じたことを示唆し, ASO
と共通する危険因子が幾つか組み合わさって脳
梗塞が惹起されるものと考えられた。さらに梗
塞群は時間とともに増加し, しかも無症状の
lacuneが16例と多かった。

72 老年期の夜間頻尿とせん妄

(精神医学)

○谷口 雅章 久保寺恭二 錦織 靖
本郷 誠司 坂上 紀幸 三浦四朗衛

老年期のせん妄は精神科が他科より相談依頼され
ることの多い病態である。原因疾患には種々のもの
があり, 特に老年期において生じやすい。また身
体的, 心理的に複数の因子が重なって生じること
が多い。ところで夜間せん妄が, 睡眠覚醒リズム
の異常と関係が深いという指摘がある。今回,
他患の貧尿や尿失禁による睡眠障害が, せん妄発
生の誘引のひとつとなったと思われる老年者の症
例を経験した。症例の呈示とともに, 他科より依
頼されたせん妄患者の調査を行い, 若干の考察を
加えた。まず始めに, 1989年4月1日より, 1990年
3月31日までに, 当院他科入院中で精神科に診療依
頼のあった127例について調査した。そのうちせん
妄例は26名, 男性20名, 女性6名であった。全体の
20.5%を占めていた。50歳以上の患者では, 80名中
22名, 27.5%であった。なお, 夜間頻尿による睡
眠障害が誘因となったと考えられるものが, 74歳
の男性に1例認められた。次に当科に入院したせん
妄患者を呈示する。72歳男性で多発性脳梗塞, 糖
尿病, 再生不良性貧血と言う, せん妄を惹起しや
すい基礎疾患を持ち, 前立腺肥大症を合併してい
た。夜間頻尿, 尿失禁による睡眠障害の増悪が,
夜間せん妄を増悪したと思われた。さらに, バル
ーン挿入による夜間頻尿の改善と, せん妄の改善
が相関することが確認された。以上, 今回の患者
調査及び呈示した症例により, 老年者において,
排尿障害による睡眠障害が, 時に夜間せん妄の誘
因となり得ることが認められた。老年期のせん妄
患者を見る場合には, こういう面に対する考慮も
必要と思われる。